

## 日本

日銀金融政策決定会合（2024年6月13-14日）

## 国債買入れ額の減額方針を示す、7月会合で詳細計画を公表へ

政策・経済センター  
北川諒・堂本健太  
03-6858-2717

## 1 主な決定内容

|           | 声明文の概要  |
|-----------|---|
| 政策金利      | 無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0～0.1%程度で推移するよう促す。<br>⇒政策金利は据え置き   |
| 長期国債買入れ方針 | 次回会合までの長期国債の買入れについては、24年3月の会合に決定された方針に沿って実施（ <b>月間6兆円程度の買入れを7月まで継続</b> ）。その後については、長期金利がより自由な形で形成されるよう、 <b>長期国債買入れを減額していく方針を決定</b> 。市場参加者の意見も確認し、 <b>次回会合において、今後1～2年程度の具体的な減額計画を決定</b> 。 |

出所：日本銀行「当面の金融政策運営について」より三菱総合研究所作成

## 2 国債利回りと為替（6月14日中）



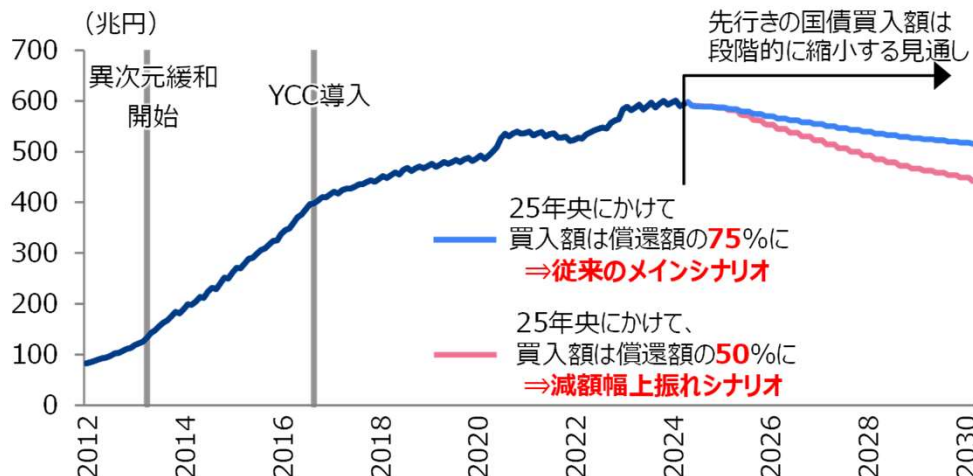
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 金融政策決定会合の結果

- 日本銀行は、24年6月13-14日の金融政策決定会合にて、長期国債買入れ額を減額していく方針を決定した。市場参加者の意見を確認した上で、次回7月会合において、今後1～2年程度の具体的な減額計画を示すことが予告された（図表1）。なお、次回7月会合までの長期国債の買入れは、24年3月会合において決定された方針（月間6兆円程度）に沿って実施される方針である。
- また、政策金利について、無担保コールレート（オーバーナイト物）を0～0.1%程度に誘導する方針が維持された。
- 植田総裁は記者会見にて、国債買入れ額の減額は、予見可能性とオペの柔軟性のバランスを考慮しつつ、「相応の規模になる」と強調した。為替レートについては、「最近の円安の動きは物価の上振れ要因であり、政策運営上十分に注視」と言及し、4月会合後の記者会見時よりも警戒感を強めた。
- 金融市場において、為替レートは声明文公表直後に円安で反応したものの、記者会見後に水準を戻した（図表2）。声明文の内容が想定よりもハト派的と解釈されたものの、記者会見ではタカ派的な発言が多かったことが影響した模様。

## 3 日本銀行の保有国債残高

注：償還額は4月30日時点の保有国債を基に計算。新規で購入する長期国債は残存期間10年であると仮定。  
出所：日本銀行「日本銀行が保有する国債の銘柄別残高」「国債便覧」「日本銀行勘定」より三菱総合研究所作成

## 今後の見通し

- 国債買入れ額の減額について、植田総裁は「金融政策の能動的な手段として使いたくない」と言及しており、金融市場における自由な価格形成を促進する観点から、段階的な減額計画が示されるだろう。
- 当社は国債買入れ額について、1年間で償還額の75%程度まで緩やかな減少（1.5兆円程度の減額）を見込んでいた（図表3■）。会見で強調された「相応の規模」という表現を踏まえると、減額幅は従来想定よりも上振れる可能性もあるが、長期金利の上昇圧力の想定以上高まりが金融市場に与える影響を考慮すれば、早いペースでの大幅減額（図表3■）は現時点で想定していない。
- 先行きの金融政策について、政策金利は24年10月に0.25%に引き上げられると予測する。夏場にかけて24年春闘結果の反映に伴う賃金の改善が見込まれ、サービス価格の上昇定着を確認した上で追加的な利上げに着手するだろう。